

野宿生活者（ホームレス）に関する
総合的調査研究報告書

2001年1月

大阪市立大学都市環境問題研究会

1998-1999 年度
「野宿生活者（ホームレス）調査」
調査報告

大阪市立大学都市環境問題研究会

2001 年 1 月

はじめに

近年、さまざまな事情で野宿生活を余儀なくされている人々が日本の都市部を中心として増加してきている。この傾向は大阪市においても例外ではない。平成10年度に実施した大阪市における概数・概況調査によればその数は8,660人に及んでいる。加えて、最近厚生省が把握した実態調査によれば、この増加傾向は大都市部に限られた現象ではなく、大都市周辺部や地方都市へも広がってきている（表1）^{注1}。

こうした状況を踏まえ、大阪市では野宿生活者問題について様々な角度から調査を実施し、適切な対応策を講じていくための基礎的な資料を収集していくことが必要だと判断し、平成9年度には大阪市立大学文学部社会学研究室に野宿生活者問題に関する実態調査を実施するよう委嘱した。この調査は大阪市の中南部（浪速区、中央区、天王寺区、西区）の「あいりん（釜ヶ崎）」地区周辺部の地域で、野宿を余儀なくされている人々を対象とした聞き取り調査と、この地域の住民の野宿生活者問題に関する意識調査から成っている。この調査の分析結果と政策提言は「大阪における野宿生活者問題に関する研究」（1997年3月）としてまとめられている。

しかし、その後も野宿生活者は増え続け、もはや大阪市中南部を中心とした局所的な問題ではなく、全市的な広がりを見せるに至っている。

大阪市では、こうした状況に鑑み、この問題に関して全庁的な取り組みにむけて、平成10年5月に「大阪市野宿生活者問題検討連絡会」を設置し、大阪市立大学にこの問題に関する総合的な学術調査を委託することとなった。一方、この問題に関する抜本的な対策を講じるためには一地方自治体の取り組みを越える問題を含んでおり、大阪市では国に対して法整備をはじめとするさまざまな要望を行ってきた。平成10年11月には磯村市長から小淵首相（当時）に野宿生活者問題についての国の取り組みを要望したことがきっかけとなり、平成11年2月に関係省庁と本市を含む関係地方自治体で構成する「ホームレス問題連絡会議」が設置され、同年5月に「ホームレス問題に対する当面の対応策について」を取りまとめた。

大阪市では、これを受けて、大阪市における野宿生活者対策を総合的に推進するために、「大阪市野宿生活者問題検討連絡会」を廃止し、平成11年7月1日、磯村市長を本部長とする「大阪市野宿生活者対策推進本部」を設置し、大阪市立大学に対しても平成10年度に引き続いて総合的な実態調査研究を委託することとなった。

こうした中、大阪市立大学では、平成10年5月野宿生活者問題について学部を越えて全学的に取り組むために学内に研究会を組織し、この問題に関する総合的な学術調査の実施にあたることとなり、大阪府立大学をはじめとする近畿圏の大学の研究者や専門家にも協力を求め調査に着手することとなった。

平成10年度から平成11年度にかけて実施した調査は「平成10年度 大阪市内における野宿生活者（ホームレス）の概数・概況調査」、「平成10年度 野宿生活者問題に関する市民意識調査」、「平成10年度 臨時宿泊所利用者聞き取り調査」、「平成11年度 野宿生活者（ホームレス）聞き取り調査」、「平成11年度 大阪市内観光施設におけるヴィジター調査」である。また関連調査として大阪市立大学文学部社会学研究室が

^{注1} なお、2000年10月1日の国勢調査に基づく野宿者（ホームレス）の概数が一部発表されている。それによると、東京23区＝約4000人、横浜市＝499人、川崎市＝1043人、名古屋市＝1175人、大阪市＝6413人、京都市＝460人となっている。

実施した「平成10年度 西成労働福祉センター夜間開放利用者調査」、大阪社会医療センター社会医学研究会が実施した「平成10年度 大阪社会医療センター入院患者生活実態調査」がある。

本報告書は、上記一連の調査（ただし「関連調査」は除く）の結果をまとめたものである。なお、「大阪市内における野宿生活者（ホームレス）の概数・概況調査」については平成10年11月に「速報」として、「野宿生活者（ホームレス）聞き取り調査」の一部については平成12年2月に「中間報告」として公表済みであるが、あらためて本報告書に収録されている。

調査では、長時間に及び、また質問のなかにはプライベートな問題にわたる設問があったにもかかわらず快く応じて回答していただいた野宿生活者の方々に心からお礼を申し上げます。

また、調査実施の過程では、多くの方々からさまざまな面にわたってご協力をいただいたり、貴重なご示唆を賜った。本来ならすべての方のお名前をあげて感謝の意を尽くすべきだと考えるが、調査に協力して下さった方の数が膨大であるとともに、それらの方々を平等に（とくに最後まで報告書作成作業をやってくれた院生諸君に対して）一つの紙面で取り扱うことができなかつたので、この紙面を借りて調査に協力して下さった皆様に厚くお礼を申し上げる次第である。

全国のホームレスの総数	201451人
東京都特別区	5800人
指定都市	12826人
横浜市	794人
川崎市	901人
名古屋市	1019人
大阪市	8660人
その他指定都市	1452人
中核都市及び県庁所在地	706人
その他市町村	1119人

表1: 各都市別のホームレスの概数

平成13年1月

大阪市立大学都市環境問題研究会

本報告における集計について

集計の方法

データの集計および分析には、主として JMP^{注2} という統計パッケージを用いた。集計作業は、大阪市立大学、大阪府立大学の教員、大学院生、および学部学生がおこなった。

本報告で用いる語句について

本報告における語句表現は、行政、マスコミにおいて定着している表現と必ずしも一致しない場合がある。今回の調査は野宿生活者への「聞き取り調査」であり、野宿している人たちが日常的に用いている用語・表現をこの報告でも使用しているためである。

行政やマスコミで「ホームレス」と呼称される人々について、本報告では「野宿生活者」もしくは「野宿（生活）者」、「野宿者」と呼称する。

「釜ヶ崎」とは行政やマスコミでは「あいりん地域（地区）」と呼称されている地域を指している。本報告書では歴史的経緯を踏まえ、「釜ヶ崎」又は「釜ヶ崎（あいりん地域）」と呼称する。また、「釜ヶ崎で仕事を探している」といった場合、「釜ヶ崎」とは「西成労働福祉センターおよびその周辺」^{注3}を主に指している。

他の語句について、「雇用保険日雇労働被保険者手帳」は「白手帳」、「あいりん日雇労働者に対する一時金」は「ソーメン代」、「特別清掃事業」^{注4}は「特掃」または「特別清掃」、「大阪市立更生相談所」は「市更相」、越年対策事業である臨時宿泊所提供事業は「臨泊」、「簡易宿所」を「ドヤ」と略述する。

本報告書は、複数によって協同執筆されたため、その他用語の統一が若干はかれていない場合がある。例えば「西成労働福祉センター」は「労働センター」あるいは単に「センター」と呼称する場合がある。

集計表におけるまるめ誤差について

本報告書の集計表において、各項目のパーセンテージの合計が 100.0 % とならず、99.9 %、100.1 % のようになっているものがある。これは各項目の実際は割り切れない数字をパーセント表示に直して小数点以下第二位で四捨五入して表記したためである。これは有効回答者総数についての各項目の割合の合計についても同様である。

注2 SAS Institute Inc. による「統計解析・グラフ表示」ソフトウェア

注3 具体的には西成区内の 5 町 11 丁（萩之茶屋 1・2・3 丁目、花園北 1・2 丁目、太子 1・2 丁目、山王 1・2・3 丁目、天下茶屋 1 丁目）を指す。

注4 「特別清掃事業」は大阪府の高齢者特別清掃事業（西成労働福祉センター 3 階の清掃）及び大阪市のあいりん生活道路清掃事業、市有地除草等作業をいい、「特掃」または「特別清掃」と略述する。

クロス集計表についての注意点

本報告書における大部分の分析はクロス集計が用いられている。以下において本報告書のクロス集計についての注意点を述べていく。

まずクロス集計を行うにあたり、ある項目について非該当である調査協力者の票についてはその分析をする時にかぎって除外して分析を行う。また二変数の内片方でも結果が不明である場合もその票は除外して分析している。よってクロス集計表ごとに有効回答票数は異なることになる。

各章の分析の焦点になっている基準変数項目はクロス集計表の表頭に配置する。クロス集計表のセル内には回答数と列パーセンテージを載せている。また、クロス集計表の統計的な検定に関しては、尤度比検定 (Likelihood Ratio Test) と Pearson のカイ二乗検定を用いており、その際に有意水準を5%として検定を行っている。本報告書ではそれぞれのカイ二乗値と出現確率を載せることにする。その結果はクロス集計表の下部に提示している。

複数回答項目の集計結果の表示について

複数回答を求めている質問については、単一回答を採用している項目と異なり、その質問で得られたデータをそのまま他の変数とクロスする事はできない。そのため、その選択肢毎にまずクロス集計を行っている。複数回答項目の集計結果の表示についての説明をするにあたり、ここでは年齢と「現在の仕事の内容」の関係を例にとって説明することにする。「現在の仕事の内容」については「廃品回収」「日雇仕事」「特別清掃」「その他の仕事」の四つの選択肢を設け、当てはまる項目のすべてに回答を求めた。

まず、質問中の選択肢毎に「従事している」「従事していない」という二つの回答と年齢とをクロスさせた結果を提示する (表 2、3、4、5)。

度数 列%	45 歳未満	45 歳以上 55 歳未満	55 歳以上 65 歳未満	65 歳以上	行合計 比率
廃品回収に 従事している	41 87.2 %	156 86.2 %	208 85.6 %	54 94.7 %	459 86.9 %
廃品回収に 従事していない	6 12.8 %	25 13.8 %	35 14.4 %	3 5.3 %	69 13.1 %
列合計 比率	47 8.9 %	181 34.3 %	243 46.0 %	57 10.8 %	528 100.0 %

Test ChiSquare Prob>ChiSq
Likelihood Ratio 4.29 0.2318
Pearson 3.53 0.3169

表 2: 「年齢」と廃品回収従事の有無

度数 列%	45 歳未満	45 歳以上 55 歳未満	55 歳以上 65 歳未満	65 歳以上	行合計 比率
日雇に 従事している	5 10.6 %	22 12.2 %	22 9.1 %	0 0.0 %	49 9.3 %
日雇に 従事していない	42 89.4 %	159 87.8 %	221 90.9 %	57 100.0 %	479 90.7 %
列合計 比率	47 8.9 %	181 34.3 %	243 46.0 %	57 10.8 %	528 100.0 %

Test ChiSquare Prob>ChiSq
Likelihood Ratio 12.85 0.005
Pearson 7.725 0.0521

表 3: 「年齢」と日雇従事の有無

度数 列%	45歳未満	45歳以上 55歳未満	55歳以上 65歳未満	65歳以上	行合計 比率
特別清掃に 従事している	0 0.0%	0 0.0%	17 7.0%	5 8.8%	22 4.2%
特別清掃に 従事していない	47 100.0%	181 100.0%	226 93.0%	52 91.2%	506 95.8%
列合計 比率	47 8.9%	181 34.3%	243 46.0%	57 10.8%	528 100.0%

Test ChiSquare Prob>ChiSq
Likelihood Ratio 25.804 <.0001
Pearson 17.812 0.0005

表 4: 「年齢」と特別清掃従事の有無

度数 列%	45歳未満	45歳以上 55歳未満	55歳以上 65歳未満	65歳以上	行合計 比率
その他に 従事している	7 14.9%	16 8.8%	27 11.1%	4 7.0%	54 10.2%
その他に 従事していない	40 85.1%	165 91.2%	216 88.9%	53 93.0%	474 89.8%
列合計 比率	47 8.9%	181 34.3%	243 46.0%	57 10.8%	528 100.0%

Test ChiSquare Prob>ChiSq
Likelihood Ratio 2.3 0.5125
Pearson 2.341 0.5048

表 5: 「年齢」とその他の仕事従事の有無

しかし、紙面に限りがある場合、一つの質問に関してこれだけのクロス集計表を載せることはできれば避けたいことである。そこで紙面に載せる際に、優先的に載せたい情報について載せることにする。

ここで分析に必要なとなった情報は、年齢層毎に調査協力者がどの仕事にどれだけ従事しているかということである。よって優先順位は「従事している」人々のデータの方が上位だということになる。ここでは「従事している人」のデータの比較のために上記のそれぞれのクロス集計表から「従事している」データを連続して載せることにする（表 6）。この作業を行った段階で、提示された表は「クロス集計表」とは異なる形式の表になる。

度数 行% 列%	45歳未満	45歳以上 55歳未満	55歳以上 65歳未満	65歳以上	行合計 比率
廃品回収	41 8.8%	161 34.7%	208 44.8%	54 11.6%	464 100.0%
	87.2%	86.6%	85.6%	94.7%	87.1%
日雇	5 10.2%	22 44.9%	22 44.9%	0 0.0%	49 100.0%
	10.6%	11.8%	9.1%	0.0%	9.2%
特別清掃	0 0.0%	0 0.0%	17 77.3%	5 22.7%	22 100.0%
	0.0%	0.0%	7.0%	8.8%	4.1%
その他	7 12.7%	17 30.9%	27 49.1%	4 7.3%	55 100.0%
	14.9%	9.1%	11.1%	7.0%	10.3%
列合計 比率	47 8.8%	186 34.9%	243 45.6%	57 10.7%	533 100.0%

表 6: 「年齢」と現在の仕事内容

この表の見方について説明する。クロス集計表と異なる点はセル内に列パーセンテージだけでなく行パーセンテージも載せている点である。この行パーセンテージを見ることによって、紙面に記載されていない、

その仕事に従事している人としていない人の割合を確認することができる。列合計の下にあるパーセンテージは列合計についての行パーセンテージである。列合計の人数と各項目毎の人数の合計が異なるのは、複数回答を行っている調査協力者がいるからである。

明らかにしたいのは、年齢層毎の比較をした場合に年齢層間にどの程度の差があるかということである。その確認は行パーセント・列パーセントのどちらを用いても行うことができる。ここでは行パーセンテージに着目して、廃品回収に従事している人を例にとって説明する。45歳未満、45歳以上55歳未満、55歳以上65歳未満、65歳以上の人々それぞれにおける廃品回収に従事している人の行パーセンテージを列挙すると、8.8%、34.7%、44.8%、11.6%となっている。この数値と列合計の行パーセンテージを比較する。列合計の行パーセンテージは、年齢層毎の割合を示したもので、それとのずれを見ることによって廃品回収に従事している人の割合の高い年齢層、又は低い年齢層を把握することができる。この比較をするために、以下に（廃品回収に従事している人の行パーセンテージ、年齢層毎のパーセンテージ）といった具合に割合を提示していく。45歳未満（8.8%、8.8%）、45歳以上55歳未満（34.7%、34.9%）、55歳以上65歳未満（44.8%、45.6%）、65歳以上（11.6%、10.7%）。以上を見てみると四つの年齢層において大きな差は見られないことがわかる。

それでは日雇仕事について見てみよう。同じように（日雇仕事に従事している人の行パーセンテージ、年齢層毎のパーセンテージ）といった具合に割合を提示していく。45歳未満（10.2%、8.8%）、45歳以上55歳未満（44.9%、34.9%）、55歳以上65歳未満（44.9%、45.6%）、65歳以上（0.0%、10.7%）。45歳未満、55歳以上65歳未満においては大きな差は見られない。しかし45歳以上55歳未満においては割合に10ポイントの差が見られる。つまり、45歳以上55歳未満の人々は他の年齢層に比して日雇仕事に従事している人の割合が高いといえる。また、65歳以上においても割合に10.7ポイントの差が見られる。すなわち65歳以上の人においては他の層に比して日雇仕事をしている人の割合が低い（日雇仕事をしている人がいない）ということが分かる。

以上において表の見方について事例を用いて説明してきたのだが、一つ問題が残る。それはここで比較して分かる割合の差を、大きな差だと言わしめているのは何かということである。しかし分析の際には実際に提示する表を作成する前に、統計的な検定が行われている。その結果は前掲のクロス集計表の下部にそれぞれ記載されている。紙面の都合上この検定結果まで載せることはできないが、実際の分析においてはこの検定値に則して差を把握していることを最後に付け加えておく。

目次

はじめに	i
本報告の集計について	iii
第Ⅰ部 大阪市における概数と概況－概数・概況調査－	1
第1章 野宿生活者の概数・概況	3
1.1 調査の概要	3
1.2 事前の予備調査および聞き取り調査	3
1.3 調査方法	3
1.4 調査対象	4
1.5 調査地域	4
1.6 調査時間	4
1.7 野宿生活者の地理的分布について	5
第Ⅱ部 野宿生活者の生活実態と行政への要望－聞き取り調査－	17
第2章 調査概要	19
2.1 調査の目的	19
2.2 調査の方法	19
2.3 調査日程	20
2.4 調査メンバー	20
2.5 調査対象地	20
第3章 調査結果の概要	23
3.1 調査協力者の基本属性	23
3.2 野宿形態	28
3.3 野宿生活の実態（仕事）	31
3.4 野宿生活の実態（生活）	35
3.5 社会関係	37
3.6 健康状態	41
3.7 今後の生活	44
3.8 釜ヶ崎での就労・生活	47
3.9 行政施策の利用状況と期待	54
3.10 生活史	55
第4章 基準変数の説明	58

4.1	「年齢」変数	58
4.2	「釜ヶ崎・建設業従事」変数	58
4.3	「野宿形態」変数	59
4.4	「野宿期間」変数	60
4.5	「仕事・生活」変数	60
4.6	「行政施策利用希望」変数	61
4.7	「野宿生活者の要望（ニーズ）」変数	61
4.8	「公園地域」変数	62
第5章	年齢と野宿	64
5.1	はじめに	64
5.2	現在の求職状況- 年齢から見た仕事を「探していない」理由とは	64
5.3	現在従事している仕事	69
5.4	行政施策に対する受け止め方	72
5.5	結び	75
第6章	野宿形態と野宿生活	77
6.1	はじめに	77
6.2	野宿形態の「テント化」	78
6.3	「テント化」をもたらす要因とは何か	80
6.4	野宿形態と生活実態- <野宿生活を生き抜く> 「生活の型」の確立	86
6.5	野宿形態と行政施策利用希望	101
6.6	小括	103
第7章	野宿期間	105
7.1	はじめに	105
7.2	野宿期間・野宿開始時期と野宿生活者の属性	105
7.3	野宿期間と求職活動	107
7.4	野宿期間の長期化と「一定の型」を持った野宿生活の確立	111
7.5	野宿期間と「福祉」・サポート資源の利用	117
7.6	野宿期間と行政施策利用希望	119
7.7	小括	121
第8章	仕事・生活変数からみた野宿生活	123
8.1	はじめに	123
8.2	仕事変数による分析	123
8.3	生活変数による分析	126
8.4	まとめ	138
第9章	釜ヶ崎・建設業の就労経験と野宿	140
9.1	「多様」な都市	140
9.2	釜ヶ崎=寄せ場	140
9.3	不安定な生活を余儀なくされている日雇労働者	141
9.4	寄せ場から野宿生活へと	143
9.5	近年の寄せ場=釜ヶ崎の「状況」	143
9.6	本章で用いる変数について	144

9.7	年齢との関係	144
9.8	就労状況	145
9.9	結婚歴との関係	148
9.10	役所への相談経験との関係	148
9.11	行政施策（自立支援センター・生活ケアセンター）の利用希望について	148
9.12	小括	149
第10章 行政施策利用希望と野宿生活者		150
10.1	はじめに	150
10.2	生活ケアセンター利用希望と野宿生活者	150
10.3	自立支援センター利用希望と野宿からの退出可能性の想定	155
10.4	小括-「野宿からの退出」と「野宿生活の確立」と行政施策利用希望	162
第11章 野宿生活者の要望（ニーズ）		164
11.1	はじめに	164
11.2	単純集計から	164
11.3	要望（ニーズ）の背景	168
11.4	野宿生活者のためいき-1999年聞き取り調査より-	174
第12章 公園・地域別に見た野宿生活者		234
12.1	公園地域変数（12類型）による分析	234
12.2	小括	251
第III部 野宿生活者の職歴変遷と野宿に至る過程 -聞き取り調査-		253
第13章 職業的キャリア		255
13.1	「豊か」さのなかで	255
13.2	どのような人が野宿を余儀なくされているのか	255
13.3	「豊かな日本」・・・？	266
第14章 地域移動		268
14.1	はじめに	268
14.2	卒業地域から初職地域へ	268
14.3	最長職の地方及び都道府県	272
14.4	初野宿前の就業地域	274
14.5	野宿のための来阪か？	276
第15章 野宿に至るまでの過程とその後の生活		279
15.1	はじめに	279
15.2	職業的キャリアの到達点としての初野宿	279
15.3	野宿生活の出発点としての初野宿	296
第16章 野宿生活者問題の背景-類型化より-		305
16.1	類型化の目的	305
16.2	職歴からみた類別	308
16.3	職歴から見えてくる野宿（生活者）問題	338
16.4	病院・施設層	338

16.5	「若年」層と「高齢」層	340
16.6	女性野宿生活者	343
16.7	長期野宿層	346
16.8	野宿（生活）者問題から見えてきた「本当」の問題	349
第 17 章 野宿生活者の生活誌—事例紹介—		350
17.1	はじめに	350
17.2	生活史	350
17.3	野宿生活	370
17.4	ニーズ・意識	382
17.5	小括	388
第 IV 部 野宿を余儀なくされている「日雇労働者」の現状—臨時宿泊所利用者聞き取り調査—		389
第 18 章 野宿を余儀なくされている「日雇労働者」の野宿生活の実態と要望		391
18.1	調査概要	391
18.2	「臨泊」利用者の概況	393
18.3	就労の状況	396
18.4	生活の状況	402
18.5	調査対象者の職歴	409
18.6	制度	413
18.7	相談所・施設利用	418
18.8	簡易宿所（ドヤ）予約前金制度	422
18.9	今後の生活	422
18.10	貯金	424
18.11	臨時宿泊所とは	425
第 V 部 大阪市民の野宿生活者への意識—市民意識調査—		427
第 19 章 「市民意識調査」の概要		429
19.1	調査の目的	429
19.2	調査の方法	429
第 20 章 野宿生活者に対する住民意識の地域格差		439
20.1	地域変数別にみる野宿（生活）者と接触する場所・場面状況	440
20.2	野宿（生活）者と住民との関係	446
20.3	「一般論」として形成される野宿（生活）者イメージ	447
20.4	近くにいる野宿（生活）者ではなく、「遠く」にいる「野宿（生活）者」のイメージ	448
第 21 章 市民の野宿生活者に対するイメージ		449
21.1	はじめに	449
21.2	「市民」の抱く野宿生活者イメージ	449
21.3	「市民」の抱く野宿生活者イメージは変化したのか	456
21.4	野宿生活者イメージは「実態」に基づくのか	459

21.5	野宿生活者イメージと「市民」の属性	470
21.6	野宿生活者イメージの対応策への動員	473
21.7	小括	479
第 22 章 住民の考える野宿の原因		481
22.1	はじめに	481
22.2	単純集計から	482
22.3	推測される原因論- 野宿生活者イメージとの関係	488
22.4	原因はやはり「推測」されているのか- 市民の抱える不安との関係	494
22.5	年齢との関係	500
22.6	終わりに	505
第 23 章 市民の野宿生活者問題に対する関心		506
23.1	はじめに	506
23.2	市民の問題への関心	507
23.3	市民の「問題関心度」と野宿生活者認識の基本的枠組	509
23.4	年齢との関係	512
23.5	若年層における謎	513
第 24 章 住民の考える野宿者問題への対応策		517
24.1	はじめに	517
24.2	単純集計	517
24.3	個々の対応策ごと見られる傾向	522
24.4	さいごに	532
第 VI 部 大阪を訪れる人々の野宿生活者への意識 - ビジター調査 -		535
第 25 章 大阪（の観光地）を訪れる人々の野宿生活者への意識- 市民意識調査との比較から		537
25.1	はじめに	537
25.2	調査協力者のカテゴリー化	538
25.3	調査協力者の属性	539
25.4	調査協力者カテゴリーは「接触」の程度を示す	541
25.5	「野宿生活者問題」はいかなる「問題」として捉えられているのか	547
25.6	結論	554

表目次

1	各都市別のホームレスの概数	ii
2	「年齢」と廃品回収従事の有無	iv
3	「年齢」と日雇従事の有無	iv
4	「年齢」と特別清掃従事の有無	v
5	「年齢」とその他の仕事従事の有無	v
6	「年齢」と現在の仕事内容	v
1.1	野宿生活者類型別区別内訳（実数）	8
1.2	野宿生活者類型別区別内訳（%）	8
1.3	主要地区の野宿生活者分布内訳（実数）	9
1.4	主要地区の野宿生活者分布内訳（%）	9
1.5	大阪市野宿生活者概数	10
2.1	調査日程	21
2.2	聞き取り票数と調査参加者数	21
2.3	調査対象地	22
3.1	性別	23
3.2	同居者の有無（女性）	23
3.3	年齢分布	24
3.4	「1998年7月西成労働福祉センター夜間開放利用者」の年齢分布	24
3.5	調査対象者の出身地方および出身都道府県	25
3.6	最終学歴	26
3.7	住民票の所在地（大阪市内外の区分）	26
3.8	住民票の所在地…大阪市内分	27
3.9	野宿場所	28
3.10	野宿場所選択の理由（複数選択可）	28
3.11	野宿場所選択理由の項目	28
3.12	テント・小屋掛けの有無	29
3.13	現在の野宿生活の野宿期間	29
3.14	過去の野宿経験	30
3.15	初野宿の時期	30
3.16	初野宿からの野宿期間	30
3.17	最初の野宿の形態	31
3.18	「同居者」の有無	31
3.19	現在の仕事の有無	31
3.20	現在の仕事の種類（複数選択可）	32

3.21 廃品回収の日数	32
3.22 仕事から得られる収入	33
3.23 仕事の時間帯（複数選択可）	34
3.24 回収品目（複数選択可）	34
3.25 移動・運搬手段の有無	34
3.26 移動・運搬手段の種類（複数選択可）	34
3.27 食事の形態	35
3.28 炊き出し利用場所	35
3.29 飲酒の有無	36
3.30 酒の調達方法（複数選択可）	36
3.31 喫煙の有無	36
3.32 タバコの調達方法（複数選択可）	36
3.33 日常生活品の調達方法（複数選択可）	37
3.34 「つきあい」の有無	37
3.35 「つきあい」の内容	37
3.36 「テントの有無」と「つきあいの有無」	38
3.37 親しくつきあっている人の数	38
3.38 地域住民や通行人とのトラブルの有無	39
3.39 親切にされた経験の有無	39
3.40 「いやがらせ」経験の有無	40
3.41 「立ち退き」経験の有無	40
3.42 「行政」への相談	41
3.43 現在の健康状態	41
3.44 病気・体調不良への対処	42
3.45 痰	42
3.46 咳	43
3.47 微熱	43
3.48 過去の病気・けが	43
3.49 過去の病気・けがの完治	43
3.50 今後もここに住み続けたいか	44
3.51 今の仕事を続けたいか	44
3.52 転職希望の有無	45
3.53 希望する仕事の種類（複数選択可）	45
3.54 求職活動の有無	45
3.55 求職活動をしていない理由（複数選択可）	46
3.56 求職活動の内容（複数選択可）	46
3.57 技能・技術の有無	47
3.58 「職業訓練」希望の有無	47
3.59 釜ヶ崎での就労経験	48
3.60 釜ヶ崎で働き始めた（生活し始めた）時期	48
3.61 釜ヶ崎へ来た時期（1998年データ／1999年データの比較）	49
3.62 釜ヶ崎以前の日雇就労経験の有無	49
3.63 釜ヶ崎での就労形態（複数回答）	50
3.64 釜ヶ崎での就労状況	50

3.65	釜ヶ崎での現在の求職活動状況	51
3.66	西成労働福祉センターでの現在の求職活動状況	51
3.67	釜ヶ崎での今後の求職活動	51
3.68	白手帳の所持状況（全体）	52
3.69	白手帳の所持状況（釜ヶ崎での就労経験者）	52
3.70	白手帳非所持の理由（釜ヶ崎での就労経験者のみ）	52
3.71	「ソーメン代」の受給状況（釜ヶ崎での就労経験者のみ）	53
3.72	釜ヶ崎での居住形態（複数回答）	53
3.73	過去における臨時宿泊所の利用経験の有無	54
3.74	今年の臨時宿泊所の利用状況	54
3.75	「自立支援センター」の利用希望の有無	55
3.76	「生活ケアセンター」の利用希望の有無	55
3.77	結婚歴	56
3.78	子供の有無	56
3.79	離婚・離別	56
3.80	家族・親族との連絡の有無	57
3.81	連絡相手（複数回答可）	57
4.1	年齢変数	58
4.2	「釜ヶ崎」変数	59
4.3	「釜ヶ崎建設業変数」	59
4.4	野宿期間基準変数	60
4.5	「仕事・生活」変数	61
4.6	現在生活不満の有無	61
4.7	今後生活不安の有無	62
4.8	行政への要望有無	62
4.9	ボランティアへの要望の有無	62
4.10	立ち退き条件の有無	62
4.11	公園地域変数（12 類型）	63
4.12	公園地域変数（7 類型）と公園地域変数（12 類型）	63
5.1	年齢と求職活動の有無	64
5.2	求職活動をしていない理由と「年齢」	66
5.3	年齢と軽作業希望の有無	66
5.4	釜ヶ崎での求職の有無と「年齢」	67
5.5	年齢と求職していない理由（釜ヶ崎で就労経験のある人）	67
5.6	今後の釜ヶ崎での求職、生活意志と「年齢」	68
5.7	野宿期間と「年齢」	68
5.8	現在の仕事の有無と「年齢」	69
5.9	現在の仕事内容と「年齢」	69
5.10	仕事従事時間帯と「年齢」	70
5.11	回収手段と「年齢」	70
5.12	回収品目と「年齢」	71
5.13	廃品回収従事日数と「年齢」	71
5.14	収入と「年齢」	71

5.15	仕事継続意志と「年齢」	72
5.16	職業訓練希望の有無と「年齢」	73
5.17	自立支援センター希望の有無と「年齢」	73
5.18	「職業・自立」と「年齢」	73
5.19	生活ケアセンター希望の有無と「年齢」	74
5.20	「自立・ケア」と「年齢」	74
5.21	転職希望の有無と「年齢」	75
6.1	野宿形態別野宿生活者数の推移	79
6.2	野宿開始時期と初野宿形態	80
6.3	野宿開始時期と人間関係による野宿場所選択の有無（今回が初野宿であるテント層のみ）	81
6.4	初野宿形態が非テントである層の野宿期間と野宿形態	82
6.5	初野宿形態が非テントである層の短期野宿と野宿形態	82
6.6	野宿形態と人間関係による野宿場所の選択の有無（初野宿形態非テントのみ）	83
6.7	野宿形態と健康状態（初野宿形態非テントのみ）	84
6.8	野宿形態と仕事の有無（初野宿形態非テントのみ）	84
6.9	野宿形態と仕事の有無	87
6.10	野宿形態と収入	89
6.11	野宿形態と収入（「廃品回収」のみ行っている者の収入）	89
6.12	野宿形態と収入（「廃品回収」のみの者を除いた収入）	89
6.13	野宿形態と回収手段の有無	90
6.14	野宿形態と回収手段	90
6.15	野宿形態と廃品回収品目	92
6.16	銅線回収の有無と収入（廃品回収のみ行っている者について）	92
6.17	粗大ごみ回収の有無と収入（廃品回収のみ行っている者について）	93
6.18	野宿形態と食事形態	94
6.19	野宿形態と食事形態の安定度	94
6.20	野宿形態と日用生活品調達方法	95
6.21	野宿形態と健康状態	96
6.22	野宿形態と「他の仕事に就きたいか」	97
6.23	野宿形態と求職活動の有無	97
6.24	野宿形態と釜ヶ崎での求職活動の有無	98
6.25	野宿形態とセンターでの求職頻度	99
6.26	野宿形態と今後釜ヶ崎で求職活動をするか	100
6.27	野宿形態と釜ヶ崎での炊き出しの利用	101
6.28	野宿形態と今年の臨泊利用の有無	101
6.29	野宿形態と自立支援センター利用希望	102
6.30	野宿形態と「職業訓練」利用希望	102
6.31	野宿形態と生活ケアセンターの利用希望	103
7.1	野宿期間と年齢分布	106
7.2	野宿開始時期と野宿開始時の年齢	106
7.3	野宿期間と職歴	107
7.4	野宿期間と転職希望	108
7.5	野宿期間と求職活動の有無	108

7.6	野宿期間と釜ヶ崎での求職活動	110
7.7	野宿期間と今後の釜ヶ崎での求職	110
7.8	野宿期間と現在の仕事の有無	112
7.9	野宿期間と仕事の有無（8ヶ月未満の者のみ）	112
7.10	野宿期間と食事形態	113
7.11	野宿期間と日用生活品の調達方法	114
7.12	野宿期間と健康状態	116
7.13	野宿期間といやがらせ・暴力経験	117
7.14	野宿期間と行政窓口への相談	117
7.15	野宿期間と白手帳所持	118
7.16	野宿期間と自立支援センターの利用希望	119
7.17	野宿期間と生活ケアセンター利用希望	121
8.1	「仕事」変数と釜変数	123
8.2	「仕事」変数と釜ヶ崎・建設変数	123
8.3	年齢と「仕事」変数	124
8.4	年齢と仕事・求職活層の有無	124
8.5	健康状態と「仕事」変数	124
8.6	野宿期間と「仕事」変数	125
8.7	野宿期間と仕事・求職活動	125
8.8	テント生活と「仕事」変数	125
8.9	食事と仕事	126
8.10	野宿者間のつきあいと仕事変数	126
8.11	野宿者間のつきあいの内容と仕事変数	126
8.12	年齢と「生活」変数	126
8.13	健康と「生活」変数	127
8.14	病気・けがと「生活」変数	127
8.15	求職活動をできない理由と生活変数	128
8.16	希望の仕事内容と生活変数	128
8.17	「年齢」と転職希望職種	128
8.18	自立支援センター希望と生活変数	129
8.19	生活ケアセンター希望の有無と生活変数	129
8.20	行政への要望の有無と生活変数	129
8.21	現在の生活の不満と生活変数	130
8.22	今後の生活の不安の有無と生活変数	130
8.23	釜ヶ崎・建設と生活変数	131
8.24	地域変数と生活変数	131
8.25	参考表：地域変数と野宿形態	132
8.26	野宿形態と生活変数	133
8.27	野宿期間と生活変数	133
8.28	野宿期間（8ヶ月未満）と生活変数	133
8.29	収入と生活変数	134
8.30	食事手段と生活変数	135
8.31	飲酒と生活変数	135
8.32	酒獲得方法と生活変数	136

8.33	喫煙と生活変数	136
8.34	タバコ獲得方法と生活変数	136
8.35	日常生活品調達方法と生活変数	137
8.36	仕事時間帯と生活変数	137
8.37	野宿者間のつきあいの有無と生活変数	138
8.38	同居人と生活変数	138
8.39	親しい仲間の数と生活変数	138
9.1	釜ヶ崎経験層 × 同居人	141
9.2	釜ヶ崎経験層 × (野宿生活後の) 役所への相談の経験	141
9.3	年齢との関係	144
9.4	4グループの平均年齢	144
9.5	現在の仕事の有無	145
9.6	現在の仕事の内容	145
9.7	仕事の継続意志 1	146
9.8	仕事の継続意志 2	146
9.9	求職活動の有無	146
9.10	求職活動をしない理由	146
9.11	白手帳の所持状況 (釜ヶ崎での就労経験者)	147
9.12	「釜ヶ崎へ来た時期」と「白手帳非所持の理由」	147
9.13	結婚歴との関係	148
9.14	役所への相談経験との関係	148
9.15	自立・ケアセンター (2分類)	149
10.1	生活ケアセンター利用希望と野宿形態	151
10.2	生活ケアセンター利用希望と収入	152
10.3	生活ケアセンター利用希望と健康状態	152
10.4	生活ケアセンター利用希望と野宿期間	153
10.5	自立支援センター利用希望と年齢	156
10.6	自立支援センター利用希望と求職活動の有無	156
10.7	自立支援センター利用希望と野宿期間	157
10.8	野宿形態と自立支援センター利用希望	158
10.9	自立支援センター利用希望と収入	159
10.10	職業訓練利用希望と自立支援センター利用希望	160
10.11	自立支援センター利用希望者中の職業訓練利用希望と年齢	161
10.12	自立支援センター利用希望者中の職業訓練利用希望と技術・技能の有無	161
11.1	現在生活の不満	165
11.2	現在生活の不満内容	165
11.3	今後生活の不安の有無	165
11.4	今後生活の不安内容	165
11.5	行政への要望の有無 1	165
11.6	ボランティアへの要望有無 1	165
11.7	行政への要望内容	166
11.8	ボランティア団体への要望内容	166

11.9 行政への要望の有無 2	167
11.10 行政への要望なし理由	167
11.11 行政からの援助拒否理由	167
11.12 ボランティアへの要望有無 2	167
11.13 ボランティアへの要望なし内容	167
11.14 ボランティアへの要望なし理由	167
11.15 立ち退き条件の有無	168
11.16 立ち退き条件内容	168
11.17 自立センター・生活ケアセンター希望 (2 分類) × 行政への要望有無	169
11.18 自立センター・生活ケアセンター希望 (2 分類) × 立ち退き条件有無	169
11.19 自立センター・生活ケアセンター希望 (2 分類) × ボランティア団体への要望有無	169
11.20 自立センター・生活ケアセンター希望 (2 分類) × 現在の生活不満有無	170
11.21 自立センター・生活ケアセンター希望 (4 分類) × 行政への要望 (仕事) 有無	170
11.22 年齢階級 × 現在の生活不満有無	170
11.23 年齢階級 × 今後の生活への不安有無	170
11.24 年齢階級 × 行政への要望有無	171
11.25 野宿期間と行政への要望	171
11.26 野宿期間と現在生活の不満の有無	172
11.27 野宿期間と今後生活の不安の有無	172
11.28 釜ヶ崎経験・建設経験 × 行政への要望有無	172
11.29 釜ヶ崎経験・建設業 × 現在生活の不満有無	173
11.30 釜ヶ崎経験・建設経験 × 今後の生活不安有無	173
12.1 公園地域変数 (12 類型) と釜ヶ崎での就労経験	234
12.2 公園地域変数 (12 類型) と釜ヶ崎変数	235
12.3 地域変数 (7 類型) と野宿場所選択理由有無	239
12.4 公園地域変数 (7 類型) と野宿場所選択理由	239
12.5 公園地域変数 (7 類型) と同居人	240
12.6 公園地域変数 (7 類型) と野宿生活者間のつきあい	240
12.7 公園地域変数 (7 類型) と野宿生活者間のつきあい内容	241
12.8 公園地域変数 (7 類型) と野宿者間のつきあい内容選択数	241
12.9 公園地域変数 (7 類型) と親切経験	242
12.10 公園地域変数 (7 類型) とトラブル経験	242
12.11 公園地域変数 (7 類型) と暴力経験	242
12.12 公園地域変数 (7 類型) と仕事有無	243
12.13 公園地域変数 (7 類型) と仕事内容	243
12.14 公園地域変数 (7 類型) と廃品回収品目	245
12.15 公園地域変数 (7 類型) と廃品回収品目選択数	245
12.16 公園地域変数 (7 変数) と廃品回収手段有無	246
12.17 公園地域変数 (7 類型) と廃品回収手段	246
12.18 公園地域変数 (7 類型) と求職活動の有無	247
12.19 公園地域変数 (7 類型) と求職活動手段	248
12.20 公園地域変数 (7 類型) と食事獲得方法	249
12.21 公園地域変数 (7 類型) と野宿後の役所への相談	249
12.22 公園地域変数 (7 類型) と臨泊利用経験	249

12.23公園地域変数（7 類型）と職業訓練希望	250
12.24公園地域変数（7 類型）と自立支援センター希望	250
12.25公園地域変数（7 類型）と生活ケアセンター希望	251
13.1 産業分類と職業分類（全体）	261
14.1 最終卒業場所	269
14.2 初職場所	270
14.3 卒業地域と初職地域（単純集計）	272
14.4 最長職場	273
14.5 調査対象者の初野宿前の就職地域単純集計	275
14.6 初野宿前のおお・近畿地方での就労経験	276
14.7 来阪動機（（初野宿前の）直前職が大阪以外の人を対象）	277
15.1 野宿直前職__産業	280
15.2 野宿直前職__職業	280
15.3 野宿直前職__従業上の地位	281
15.4 野宿直前職	282
15.5 「釜就労あり」グループの野宿直前職__産業	283
15.6 「釜就労なし」グループの野宿直前職__産業	283
15.7 「釜就労あり」グループの野宿直前職__職業	284
15.8 「釜就労なし」グループの野宿直前職__職業	284
15.9 「釜就労あり」グループの野宿直前職__従業上の地位	285
15.10 「釜就労なし」グループの野宿直前職__従業上の地位	285
15.11 「釜就労あり」グループの野宿直前職	286
15.12 「釜就労なし」グループの野宿直前職	288
15.13野宿直前職__場所	289
15.14「釜就労あり」グループの野宿直前職__場所	289
15.15「釜就労なし」グループの野宿直前職__場所	289
15.16野宿直前職時における居住形態	290
15.17野宿直前職の居住形態と従業上の地位	290
15.18「釜就労あり」グループ：野宿直前職時における居住形態	291
15.19「釜就労なし」グループ：野宿直前職時における居住形態	291
15.20野宿に至った理由	293
15.21野宿開始時期と野宿直前職__産業	294
15.22野宿開始時期と野宿直前職__職業	295
15.23野宿開始時期と野宿直前職__従業上の地位	295
15.24初野宿場所	297
15.25釜ヶ崎就労経験の有無と初野宿場所	298
15.26初野宿時における仕事の有無	300
15.27初野宿時における内容別仕事の有無	300
15.28建設日雇の減少分はどの仕事へ移行したのか	301
15.29廃品回収の増加はどの仕事からの移行か	301
15.30野宿生活からの一時的退出の有無	302
15.31野宿生活からの一時的退出の場	302

15.32入所施設別入所回数	303
15.33施設入所期間	303
18.1 年齢構成	393
18.2 出身都道府県	394
18.3 最終学歴	394
18.4 結婚経験	395
18.5 家族連絡	395
18.6 住民票の所在地	395
18.7 就労形態	396
18.8 仕事の内容	396
18.9 野宿中の仕事の有無	397
18.10野宿中の仕事の種類	397
18.11求職活動内容	398
18.12あいりん地区（釜ヶ崎へ）来た時期	400
18.131 日の賃金	401
18.1412 月の就労日数	401
18.1512 月中の総収入	402
18.161 日の生活費	402
18.17現在の所持金	403
18.18所持金の少ない理由	403
18.19「通常」の宿泊状況	403
18.20「直近」の宿泊状況	403
18.21「通常」の宿泊状況と「直近」の宿泊状況（クロス集計表）	404
18.22当日の食事回数	404
18.23前日の食事回数	404
18.24食事の形態（複数選択可）	405
18.2512 月中の野宿日数	406
18.26「野宿日数 21 日以上」の野宿開始年度	406
18.27野宿開始月（1997 年度、1998 年度）	406
18.28野宿期間	407
18.29野宿の形態（テントの有無）	407
18.30主たる野宿場所	408
18.31野宿場所選択理由大分類（複数選択可）	408
18.32野宿場所選択理由（複数選択可）	408
18.33野宿の理由	409
18.34「初職」産業分類	410
18.35「初職」の職業分類	410
18.36「生産工程・労務作業」細分類（初職）	410
18.37「最長職」産業分類	411
18.38「最長職」の職業分類	411
18.39「生産工程・労務作業」細分類（最長職）	411
18.40「直前職」産業分類	411
18.41「直前職」の職業分類	411
18.42「生産工程・労務作業」細分類（直前職）	411

18.43 白手帳の所持状況	414
18.44 白手帳不所持の理由	414
18.45 白手帳未登録の理由	415
18.46 12 月中の「アブレ手当」受給の有無	415
18.47 「アブレ手当」受給日数	416
18.48 「もち代」受給の有無	416
18.49 建設業退職金共済制度への加入状況	417
18.50 建設業退職金共済制度の認知	417
18.51 特別清掃への登録	417
18.52 特別清掃登録と年齢	417
18.53 特別清掃の認知	418
18.54 特別清掃認知と年齢	418
18.55 「特別清掃」への就労者数	418
18.56 就労日数と「特別清掃」への就労	419
18.57 12 月中の相談の有無	419
18.58 相談機関	419
18.59 市立更生相談所認知	419
18.60 市立更生相談所相談経験	420
18.61 市立更生相談所相談用件（複数選択可）	420
18.62 市立更生相談所相談結果	420
18.63 市立更生相談所具体的内容（複数選択可）	421
18.64 越年巡回相談	421
18.65 臨泊利用経験	421
18.66 簡易宿所（ドヤ）予約前金制度認知	422
18.67 簡易宿所（ドヤ）予約金制度活用	422
18.68 日雇生活に入ってから貯蓄経験	424
18.69 あいりん銀行認知	425
18.70 あいりん銀行利用経験	425
18.71 貯金とあいりん銀行	425
19.1 サンプル町丁一覧	429
19.2 回収率	432
19.3 性別	432
19.4 年齢	433
19.5 定住意志	433
19.6 居住形態	433
20.1 クラスタ結果	440
20.2 クラスタ内訳	440
20.3 地域変数 ×（野宿生活者を見かけたことがありますか）	440
20.4 地域変数 ×（町内及びその周辺で野宿生活者を見かけたことがありますか）	441
20.5 地域変数 ×（町内及びその周辺以外で野宿生活者を見かけたことがありますか）	441
20.6 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（公園）	442
20.7 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（道路・歩道）	443
20.8 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（高架下）	443

20.9 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（河川敷）	443
20.10 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（橋の下）	444
20.11 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（駅周辺）	444
20.12 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（商店街）	444
20.13 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（ビル・建築物の敷地内）	444
20.14 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（自宅の敷地内）	445
20.15 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（寺社仏閣）	445
20.16 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（駐車場）	445
20.17 地域変数 × 野宿（生活）者を見かけた場所（空き地）	446
20.18 地域変数 × 野宿生活者との関わりの有無	446
21.1 野宿生活者イメージ	450
21.2 野宿生活者イメージの偏相関マトリックス	451
21.3 「市民」の抱く野宿生活者イメージ（主成分分析結果）	455
21.4 1995 年調査野宿生活者イメージ	457
21.5 野宿生活者イメージ 1995 年- 1998 年比較	457
21.6 1995 年：「市民」の抱く野宿生活者イメージ（主成分分析結果）	458
21.7 今年に入ってから野宿生活者を見かけたことがあるか	460
21.8 野宿生活者との関わりの有無	460
21.9 野宿生活者との関わりの内容	460
21.10 野宿生活者イメージ × 「野宿生活者を見かけたことがあるか」	461
21.11 町内およびその周辺で野宿生活者を見かけたことがあるか	462
21.12 町内及びその周辺以外で野宿生活者を見かけたことがあるか	462
21.13 どういった場所で野宿生活者を見かけたか	463
21.14 野宿生活者をどのような場面で見かけたか	463
21.15 野宿生活者を見かけた場所・場面の主成分分析結果	463
21.16 野宿生活者イメージ × 「接触頻度尺度」	464
21.17 野宿生活者イメージ × 関わりの内容	465
21.18 問題・トラブルの有無	467
21.19 「野宿生活者を見かける頻度」 × 「問題・トラブルの有無」	467
21.20 問題・トラブルの内容	468
21.21 野宿生活者イメージ × 「問題・トラブルの有無」	469
21.22 野宿生活者イメージ × 「性別」	471
21.23 野宿生活者イメージ × 「年齢」	471
21.24 野宿生活者イメージ × 「15 歳未満の子どもとの同居の有無」	472
21.25 野宿生活者イメージ × 「シェルター建設」	474
21.26 野宿生活者イメージ × 「炊き出し・医療活動」	475
21.27 野宿生活者イメージ × 「仕事の斡旋・紹介」	476
21.28 野宿生活者イメージ × 「公共空間の開放」	478
22.1 野宿生活者が野宿にいたったのは何が原因だと思いますか	484
22.2 野宿生活者が野宿にいたったのは何が原因だと思いますか（1995 年度市民意識調査による）	484
22.3 「野宿にいたった原因」を一つだけ選択した人についての単純集計	485
22.4 「野宿にいたった原因」の選択パターン	485
22.5 選択パターン変数単純集計	486

22.6 「野宿にいたった原因」の選択肢間における偏相関行列	487
22.7 1998年度市民意識調査「失業」変数(3項目)	488
22.8 1995年度市民意識調査「失業」変数(3項目)	488
22.9 1998年度市民意識調査「疾病・高齢」変数(3項目)	488
22.10 1995年度市民意識調査「疾病・高齢」変数(3項目)	488
22.11 1998年度市民意識調査「自業自得」変数(3項目)	488
22.12 1995年度市民意識調査「自業自得」変数(3項目)	488
22.13 1998年度市民意識調査「身寄りがないから」	488
22.14 1995年度市民意識調査「身寄りがないから」	488
22.15 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「失業」変数(1998年度)	489
22.16 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「疾病・高齢」変数(1998年度)	490
22.17 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「自業自得」変数(1998年度)	490
22.18 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「身寄りがないから」(1998年度)	490
22.19 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「失業」変数(1995年度)	491
22.20 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「疾病・高齢」変数(1995年度)	492
22.21 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「自業自得」変数(1995年度)	492
22.22 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「身寄りがないから」(1995年度)	492
22.23 原因選択パターンごとに見た野宿生活者イメージの主成分スコアの平均値	493
22.24 市民の抱える不安と「失業」変数	495
22.25 市民の抱える不安と「疾病・高齢」変数	495
22.26 市民の抱える不安と「自業自得」変数	495
22.27 市民の抱える不安と「身寄りがないから」	496
22.28 不安:「病気」「老後」「天災」と「失業」	497
22.29 不安:「老後の生活」と「病気やけが」	497
22.30 不安:「不況」「失業」「天災」と「病気やけが」	498
22.31 不安:「不況」「失業」「天災」と「老後の生活」	498
22.32 「治安の悪化」の不安と野宿生活者イメージ	500
22.33 年齢(10歳刻み)と「失業」変数(2項目)(1995年度)	501
22.34 年齢(10歳刻み)と「失業」変数(2項目)(1998年度)	501
22.35 年齢(10歳刻み)と「疾病・高齢」変数(2項目)(1998年度)	501
22.36 年齢(10歳刻み)と「疾病・高齢」変数(2項目)(1995年度)	502
22.37 年齢(10歳刻み)と「高齢で働けなくなったから」(1998年度)	502
22.38 年齢(10歳刻み)と「自業自得」変数(2項目)(1998年度)	503
22.39 年齢(10歳刻み)と「自業自得」変数(2項目)(1995年度)	503
22.40 原因選択パターンと年齢	504
23.1 問1 単純集計	507
23.2 問2 単純集計	507
23.3 問3 単純集計	507
23.4 問4 単純集計	507
23.5 問5 単純集計	508
23.6 問6 単純集計	508
23.7 野宿生活者問題に対する意見(問2~6)主成分分析結果	508
23.8 「問題関心度」変数(カテゴリカル)の定義	509
23.9 「問題関心度」変数(カテゴリカル)の単純集計	509

23.10 「野宿者イメージ」と「問題関心度」との関係	509
23.11 「野宿の原因論」と「問題関心度」の関係	510
23.12 選択パターン毎の「問題関心度」平均スコア	511
23.13 原因論選択パターンと判断保留選択数	512
23.14 年齢と「問題関心度」	512
23.15 「判断保留変数」単純集計	514
24.1 「シェルター」単純集計	518
24.2 「市民ボランティア」単純集計	518
24.3 「仕事斡旋・紹介」単純集計	518
24.4 「公共空間開放」単純集計	518
24.5 「シェルター」と「失業」変数（二類型）	523
24.6 「シェルター」と「疾病・高齢」変数（二類型）	523
24.7 「シェルター」と「自業自得」変数（二類型）	523
24.8 「シェルター」と原因論選択パターン	524
24.9 「市民ボランティア」と「失業」変数（二類型）	525
24.10 「市民ボランティア」と「疾病・高齢」変数（二類型）	525
24.11 「市民ボランティア」と「自業自得」変数（二類型）	525
24.12 「市民ボランティア」と原因論選択パターン	526
24.13 「仕事の斡旋・紹介」と「失業」変数（二類型）	528
24.14 「仕事の斡旋・紹介」と「自業自得」変数（二類型）	528
24.15 「仕事の斡旋・紹介」と原因論選択パターン	529
24.16 「公共空間開放」と「失業」変数（二類型）	531
24.17 「公共空間開放」と「疾病・高齢」変数（二類型）	531
24.18 「公共空間開放」と「自業自得」変数（二類型）	531
24.19 「公共空間開放」と原因論選択パターン	532
25.1 調査実施場所調査協力者数	537
25.2 居住地	538
25.3 大阪市を訪れる頻度（大阪市居住者を除く）	538
25.4 調査協力者カテゴリー	538
25.5 調査協力者カテゴリー別性別	539
25.6 調査協力者カテゴリー別年齢分布	539
25.7 調査協力者カテゴリー別居住地方	540
25.8 「常連ビジター」の来阪理由	540
25.9 「観光客的ビジター」の来阪理由	540
25.10 調査協力者カテゴリー別居住地での野宿生活者を見かけるか	542
25.11 調査協力者カテゴリー別居住地での野宿生活者を見かける頻度	542
25.12 調査協力者カテゴリーと「来阪中大阪市内で野宿生活者を見かけたか」	543
25.13 調査協力者カテゴリーと「来阪中大阪市内で野宿生活者を見かけた頻度」	544
25.14 調査協力者カテゴリーと「来阪中大阪市内で野宿生活者を見かけた場所」	544
25.15 「来阪中大阪市内で野宿生活者を見かけた場所」主成分分析結果	545
25.16 調査協力者カテゴリーと野宿生活者との接触程度	545
25.17 調査協力者カテゴリーと「見かけた野宿生活者の様子」	546
25.18 「調査協力者カテゴリー」と「野宿生活者を見てどう思ったか」	548

25.19 調査協力者カテゴリーと「年齢（3階層）」	549
25.20 「年齢」と「野宿生活者を見てどう思ったか」	549
25.21 野宿生活者増加原因の推測	551
25.22 野宿生活者増加原因の推測	551
25.23 今後の野宿生活者数の推測	552
25.24 今後の野宿生活者数の推測	552
25.25 野宿生活者問題への対応策	553
25.26 年齢と野宿生活者問題への対応策	554

目次

3.1	野宿生活者の年齢分布（1998年調査結果と1999年調査結果の比較）	24
3.2	1998年度「西成労働福祉センター夜間開放利用者」の「野宿期間」	29
3.3	1998年度「西成労働福祉センター夜間開放利用者」の「釜ヶ崎在住期間」	49
6.1	大阪市内公園におけるテント・小屋掛け数の推移	78
6.2	釜ヶ崎地域内の非テント野宿者数	78
6.3	野宿形態別野宿生活者数の推移	79
6.4	野宿開始時期と初野宿形態	81
6.5	野宿開始時期と人間関係による野宿場所選択の有無（今回は初野宿であるテント層のみ）	81
6.6	初野宿形態が非テントである層の野宿期間と野宿形態	82
6.7	初野宿形態が非テントである層の短期野宿と野宿形態	82
6.8	野宿形態と人間関係による野宿場所の選択の有無（初野宿形態非テントのみ）	83
6.9	野宿形態と健康状態（初野宿形態非テントのみ）	84
6.10	野宿形態と仕事の有無（初野宿形態非テントのみ）	84
6.11	初野宿形態と現在の野宿形態	85
6.12	野宿形態と仕事の有無	87
6.13	野宿形態と仕事の有無（仕事の内容別）	87
6.14	野宿形態と収入	89
6.15	野宿形態と回収手段の有無	90
6.16	野宿形態と回収手段	90
6.17	大阪市内主要公園におけるテント数の推移	91
6.18	野宿形態と廃品回収品目	92
6.19	銅線回収の有無と収入（廃品回収のみ行っている者について）	92
6.20	粗大ごみ回収の有無と収入（廃品回収のみ行っている者について）	93
6.21	野宿形態と食事形態	94
6.22	野宿形態と食事形態の安定度	94
6.23	野宿形態と日常生活品調達方法	95
6.24	野宿形態別野宿期間と健康状態が悪い割合	96
6.25	野宿形態と「他の仕事に就きたいか」	97
6.26	野宿形態と求職活動の有	97
6.27	野宿形態と釜ヶ崎での求職活動の有無	98
6.28	野宿形態とセンターでの求職頻度	99
6.29	野宿形態とセンターでの求職頻度	99
6.30	野宿形態と今後釜ヶ崎で求職活動をするか	100
6.31	野宿形態と釜ヶ崎での炊き出しの利用	101
6.32	野宿形態と今年の臨泊利用の有無	101
6.33	野宿形態と自立支援センター利用希望	102

6.34	野宿形態と「職業訓練」利用希望	102
6.35	野宿形態と生活ケアセンターの利用希望	103
7.1	野宿期間	106
7.2	野宿期間と年齢分布	106
7.3	野宿期間と職歴	107
7.4	野宿期間と転職希望	108
7.5	野宿期間と求職活動の有無	109
7.6	野宿期間と転職希望者中の求職活動実施率	109
7.7	野宿期間と釜ヶ崎での求職活動	110
7.8	野宿期間と今後の釜ヶ崎での求職	110
7.9	野宿期間と仕事の有無（8ヶ月未満の者のみ）	112
7.10	野宿期間と食事形態	113
7.11	野宿期間と食事形態（収入2.5万円未満）	114
7.12	野宿期間と食事形態（収入2.5万円以上）	114
7.13	野宿期間と日常生活品の調達方法	115
7.14	野宿期間（8ヶ月未満）と日常生活品の調達方法	115
7.15	野宿期間と健康状態が悪い割合	116
7.16	野宿期間といやがらせ・暴力経験／トラブル経験	117
7.17	野宿期間と行政窓口への相談	118
7.18	野宿期間と白手帳所持	119
7.19	野宿期間と自立支援センターの利用希望	120
7.20	野宿期間と生活ケアセンター利用希望	121
9.1	釜ヶ崎就労経験	142
9.2	釜ヶ崎就労形態	142
9.3	釜ヶ崎居住形態	142
9.4	現在の白手帳所持状況	142
9.5	釜ヶ崎へ来た当時の年齢	143
9.6	求職方法	143
9.7	釜ヶ崎「センター」の現金・飯場求人総数	144
9.8	（今回の）野宿を始めた年（釜ヶ崎就労経験層）	144
9.9	「釜ヶ崎へ来た時期」と「白手帳非所持の理由」	147
10.1	生活ケアセンター利用希望と野宿形態	151
10.2	生活ケアセンター利用希望と健康状態	152
10.3	生活ケアセンター利用希望と野宿期間	153
10.4	行政：野宿期間と生活ケアセンター利用希望	153
10.5	野宿形態別 野宿期間と生活ケアセンター利用希望	154
10.6	健康状態別 野宿期間と生活ケアセンター利用希望	154
10.7	自立支援センター利用希望と年齢	156
10.8	自立支援センター利用希望と求職活動の有無	156
10.9	自立支援センター利用希望と野宿期間	157
10.10	野宿期間と自立支援センター利用希望	158
10.11	求職活動の有無別野宿期間と自立支援センター利用希望	158

10.12	野宿形態と自立支援センター利用希望	158
10.13	職業訓練利用希望と自立支援センター利用希望	160
10.14	自立支援センター利用希望者中の職業訓練利用希望と年齢	161
10.15	自立支援センター利用希望者中の職業訓練利用希望と技術・技能の有無	161
12.1	各公園地域の「釜ヶ崎往還」層の比率と釜ヶ崎からの距離の関係	235
12.2	各公園地域の「釜ヶ崎離脱」層の比率と釜ヶ崎からの距離の関係	236
12.3	各公園地域の「非釜ヶ崎」層の比率と釜ヶ崎からの距離の関係	236
12.4	公園地域と年齢分布	237
12.5	公園地域と野宿期間	238
12.6	地域別収入平均	244
12.7	地域別廃品回収日数	247
13.1	年齢階級	256
13.2	就職年度（初職）	256
13.3	就労回数	256
13.4	全国の産業別就業者数割合の推移	257
13.5	全国の職業別就業者数割合の推移	257
13.6	全国の従業上の地位別就業者数割合の推移	258
13.7	産業分類（全体）	259
13.8	職業分布（全体）	259
13.9	従業上の地位（全体）	260
13.10	就職年度における産業分類（全体）	260
13.11	産業分類（初職）	262
13.12	職業分類（初職）	262
13.13	従業上の地位（初職）	262
13.14	勤続年数（初職）	263
13.15	退職年齢（初職）	263
13.16	産業分類（直前職）	264
13.17	釜ヶ崎（ならびに野宿生活）直前職（産業）	264
13.18	直前職（職業）	264
13.19	従業上の地位（直前職）	264
13.20	初職・中位職・直前職における産業比率	265
13.21	初職・中位職・直前職における職業比率	265
13.22	初職・中位職・直前職における従業上の地位比率	265
13.23	退職年度（全体）	266
15.1	野宿直前職__産業	280
15.2	野宿直前職__職業	280
15.3	野宿直前職__従業上の地位	281
15.4	「釜就労あり」グループの野宿直前職__産業	284
15.5	「釜就労なし」グループの野宿直前職__産業	284
15.6	「釜就労あり」グループの野宿直前職__職業	285
15.7	「釜就労なし」グループの野宿直前職__職業	285
15.8	「釜就労あり」グループの野宿直前職__従業上の地位	286

15.9 「釜就労なし」グループの野宿直前職__従業上の地位	286
15.11 「釜就労あり」グループの野宿直前職__場所	287
15.12 「釜就労なし」グループの野宿直前職__場所	287
15.10野宿直前職__場所	289
15.13野宿直前職時における居住形態	290
15.14野宿直前職の居住形態と従業上の地位	291
15.15 「釜就労あり」グループ：野宿直前職時における居住形態	292
15.16 「釜就労なし」グループ：野宿直前職時における居住形態	292
15.17野宿に至った理由	293
15.18野宿開始時期と野宿直前職__産業	294
15.19野宿開始時期と野宿直前職__職業	295
15.20野宿開始時期と野宿直前職__従業上の地位	295
15.21初野宿場所 1	297
15.22釜ヶ崎就労経験の有無と初野宿場所（人数）	298
15.23釜ヶ崎就労経験の有無と初野宿場所（比率）	298
15.24野宿場所の移動	299
15.25初野宿場所	300
15.26初野宿と現在の野宿における内容別仕事の有無の変化	300
15.27野宿生活からの一時的退出の有無	302
15.28野宿生活からの一時的退出の場	302
16.1 職歴分類図	306
16.2 病院・施設利用者分類図	307
16.3 若年者・高齢者分類図	307
16.4 建設業分類図	308
16.5 釜ヶ崎現金求人推移	309
18.1 年齢構成の図	393
18.2 仕事の有無（臨泊一、二次面接調査と1999年間き取り調査）	397
18.3 仕事内容（臨泊一、二次面接調査と1999年間き取り調査）	397
18.4 求職活動の有無（臨泊3面と1999年間き取り調査）	398
18.5 求職活動内容（臨泊3面と1999年間き取り調査）	398
18.6 求職活動しない理由（臨泊3面と1999年間き取り調査）	399
18.7 日雇経験の有無	399
18.8 日雇就労期間	399
18.11あいりん地区（釜ヶ崎へ）来た時期（まとめ）	400
18.9 釜ヶ崎就労経験	400
18.10釜ヶ崎就労開始時期	400
18.12野宿場所選択理由（臨泊3面と1999年間き取り調査）	409
18.13臨泊調査における職歴（産業）	412
18.14聞き取り調査における職歴（産業）	412
18.15臨泊調査における職歴（職業）	413
18.16聞き取り調査における職歴（職業）	413
18.17釜ヶ崎来訪者を除く聞き取り調査における職歴（産業）	414
18.18釜ヶ崎来訪者を除く聞き取り調査における職歴（職業）	414

18.19 臨泊入所歴	422
18.20 自活用意	423
18.21 臨泊を出てからの行き先	423
18.22 臨泊がなかったら生活場所	424
19.1 世帯	433
19.2 職業	434
19.3 世代毎の家族構成	435
19.4 世代毎の居住年数	435
19.5 世代毎の職種	435
19.6 性別毎の職種	436
19.7 家族構成毎の居住形態	436
19.8 家族構成毎の居住年数	437
19.9 家族構成毎の職種	437
19.10 居住年数毎の職種	438
19.11 住居形態毎の職種	438
20.1 「町内及びその周辺で、どういった場所で野宿生活者を見かけましたか」(複数回答可)	442
21.1 野宿生活者イメージ	450
21.2 野宿生活者イメージ概略図	452
21.3 野宿生活者イメージ 1995 年- 1998 年比較	457
21.4 野宿生活者イメージ 1995 年- 1998 年の増減	457
21.5 野宿生活者イメージ×「野宿生活者を見かけたことがあるか」	462
21.6 野宿生活者イメージ×「接触頻度尺度」	464
21.7 野宿生活者イメージ×関わりの内容「いやがらせをされた」	465
21.8 野宿生活者イメージ×関わりの内容「会話をした」	465
21.9 野宿生活者イメージ×関わりの内容「支援をした」	466
21.10 「野宿生活者を見かける頻度」×「問題・トラブルの有無」	467
21.11 問題・トラブルの内容	468
21.12 野宿生活者イメージ×「問題・トラブルの有無」	469
21.13 野宿生活者イメージ×「性別」	471
21.14 「邪魔者」イメージ×「年齢」	472
21.15 「弱者」イメージ×「年齢」	472
21.16 「怠け者」イメージ×「年齢」	472
21.17 「恐怖」イメージ×「年齢」	472
21.18 野宿生活者イメージ×「15 歳未満の子どもとの同居の有無」	473
21.19 野宿生活者イメージ×「シェルター建設」	474
21.20 野宿生活者イメージ×「炊き出し・医療活動」	475
21.21 野宿生活者イメージ×「仕事の斡旋・紹介」	477
21.22 野宿生活者イメージ×「公共空間の開放」	478
22.1 野宿生活者に対する市民意識についてのモデル	482
22.2 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「失業」変数(1998 年度)	491
22.3 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「疾病・高齢」変数(1998 年度)	491
22.4 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「自業自得」変数(1998 年度)	491

22.5 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「身寄りがないから」(1998 年度)	491
22.6 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「失業」変数(1995 年度)	492
22.7 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「疾病・高齢」変数(1995 年度)	492
22.8 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「自業自得」変数(1995 年度)	492
22.9 野宿生活者イメージの主成分平均スコアと「身寄りがないから」(1995 年度)	492
22.10 原因選択パターンごとに見た野宿生活者イメージの主成分スコアの平均値	493
22.11 年齢(10 歳刻み)と「失業」変数(2 項目)(1995 年度、1998 年度)	503
22.12 年齢(10 歳刻み)と「疾病・高齢」変数(2 項目)(1995 年度、1998 年度)	503
22.13 年齢(10 歳刻み)と「高齢で働けなくなったから」(1995 年度、1998 年度)	504
22.14 年齢(10 歳刻み)と「自業自得」変数(2 項目)(1995 年度、1998 年度)	504
22.15 原因選択パターンと年齢	504
23.1 [「野宿生活者イメージと「問題関心度」]	510
23.2 「野宿の原因論」と「問題関心度」の関係	510
23.3 「選択パターン」別に見た「問題関心度」平均スコア	511
23.4 原因論選択パターンと判断保留選択数	511
23.5 年齢と「問題関心度」	513
23.6 意見項目別に見た判断保留回答の比率	514
23.7 年齢と「判断保留変数」	514
23.8 選択パターン別にみた年齢と「判断保留変数」	515
23.9 年齢別に見た各意見項目における判断保留の割合	515
24.1 「シェルター」と「失業」変数(二類型)	524
24.2 「シェルター」と「疾病・高齢」変数(二類型)	524
24.3 「シェルター」と「自業自得」変数(二類型)	524
24.4 「シェルター」と原因論選択パターン	524
24.5 「市民ボランティア」と「失業」変数(二類型)	527
24.6 「市民ボランティア」と「疾病・高齢」変数(二類型)	527
24.7 「市民ボランティア」と「自業自得」変数(二類型)	527
24.8 「市民ボランティア」と原因論選択パターン	527
24.9 「仕事の斡旋・紹介」と「失業」変数(二類型)	530
24.10 「仕事の斡旋・紹介」と「疾病・高齢」変数(二類型)	530
24.11 「仕事の斡旋・紹介」と「自業自得」変数(二類型)	530
24.12 「仕事の斡旋・紹介」と原因論選択パターン	530
24.13 「公共空間開放」と「失業」変数(二類型)	532
24.14 「公共空間開放」と「疾病・高齢」変数(二類型)	532
24.15 「公共空間開放」と「自業自得」変数(二類型)	533
24.16 「公共空間開放」と原因論選択パターン	533
25.1 調査協力者カテゴリー別性別	539
25.2 調査協力者カテゴリー別年齢分布	539
25.3 「常連ビジター」の居住地方	540
25.4 「観光客的ビジター」の居住地方	540
25.5 「常連ビジター」の来阪理由	541
25.6 「観光客的ビジター」の来阪理由	541

25.7 「大阪市民」	548
25.8 「常連ビジター」	548
25.9 「観光客的ビジター」	548
25.10 「こわい」	550
25.11 「怠けている」	550
25.12 「不健康である」	550
25.13 野宿生活者問題への対応策	553
25.14 「排除・撤去」	554
25.15 「福祉的支援」	554